

3 社会的環境

本市は、豊かな地域資源を持っており、農業・観光・産業などのバランスも良く、また交通の要衝として発展してきました。しかしながら、今後は全国的な地域課題である人口減少・少子高齢化とそれに伴う福祉比重の増大や、生産年齢人口の減少に伴う経済の停滞などが懸念されています。

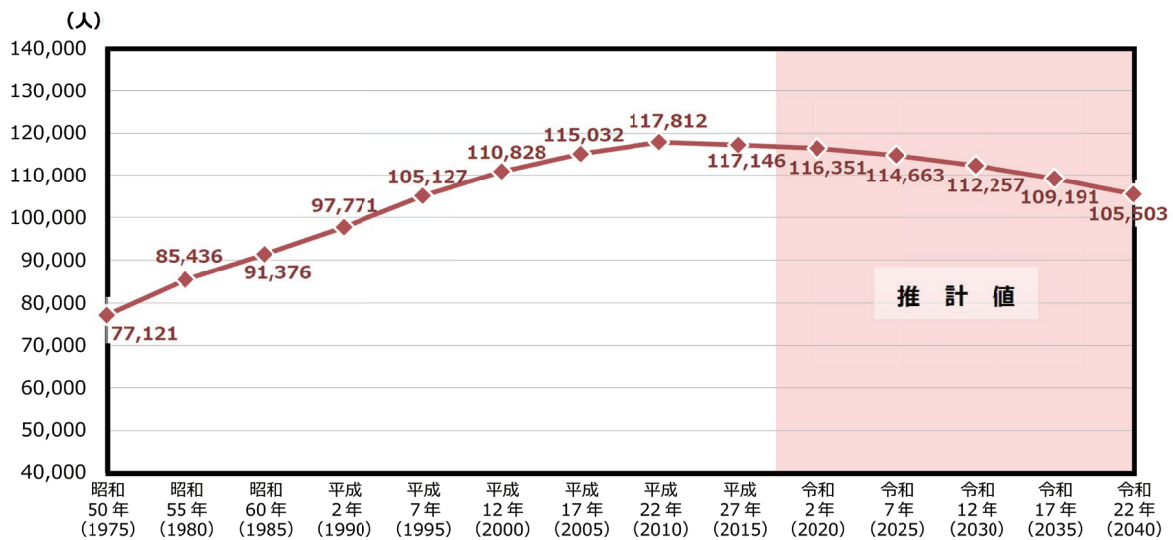
(1) 人口の動態と将来ビジョン

① 総人口と世帯数

平成 27 年（2015）の国勢調査による本市の総人口は 117,146 人であり、平成 22 年（2010）の 117,812 人に対し 666 人減少しました。

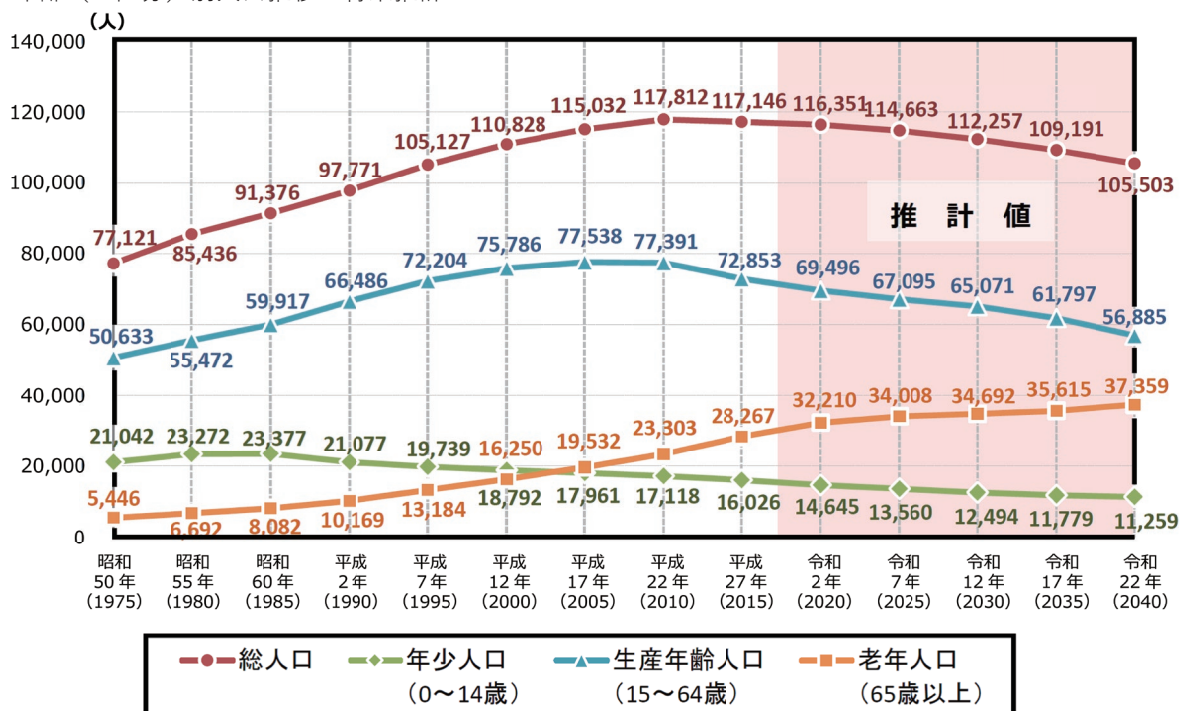
この国勢調査の結果を基に将来推計をしたところ、本市の総人口は第 2 次総合計画期間内の令和 7 年（2025）に 114,663 人になる見込みであり、その後も緩やかに減少する予測となっています。

■ 人口推移と将来推計



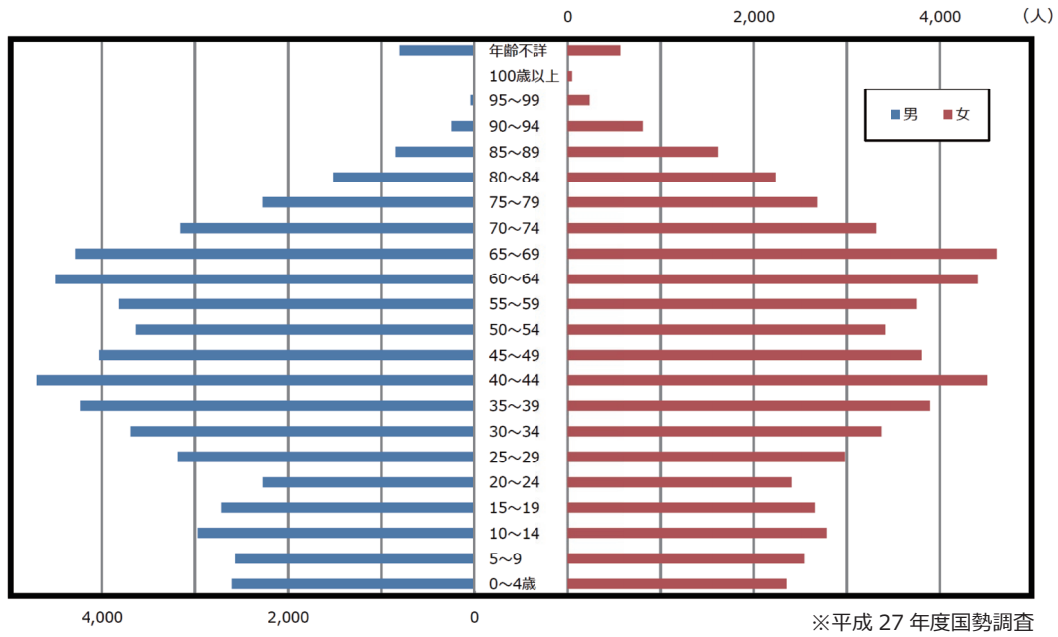
※第 2 次那須塩原市総合計画

■ 年齢（3区分）別人口推移と将来推計



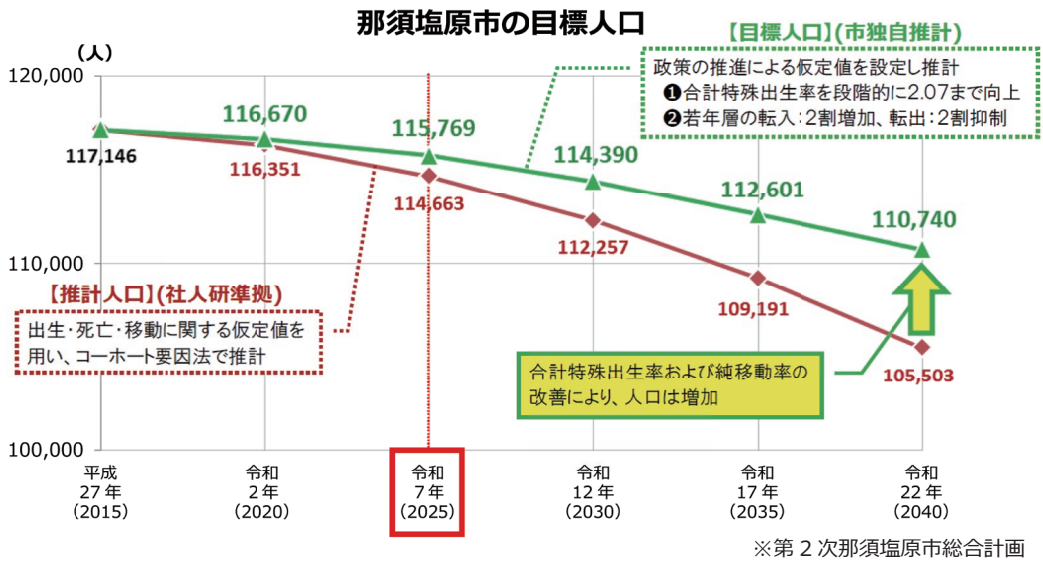
※第 2 次那須塩原市総合計画

■ 人口ピラミッド



なお、第2次那須塩原市総合計画における人口ビジョンでは、合計特殊出生率と転入転出に関する数値の改善により、令和7年（2025）における本市の目標人口を115,800人としています。

■ 目標人口



②地区（旧市町村区）別人口と分布傾向

次に、本構想において、今後の文化財の活用や維持に関し、市民協働や地域自治を検討する上で念頭に置くべき地区（旧市町村区）に合わせて、地域別人口を集計しました。

本市における人口集中地区（DID）は、JR 黒磯駅周辺と JR 西那須野駅周辺の2か所あります。

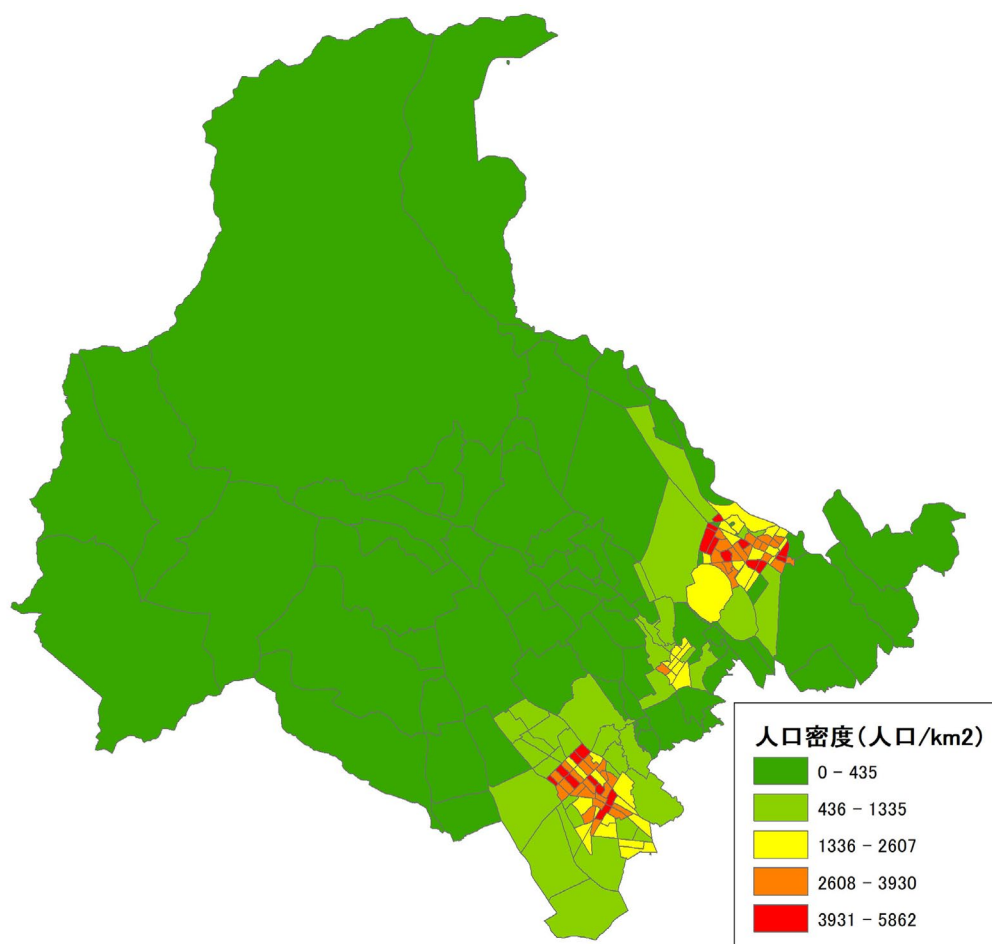
JR 黒磯駅周辺では平成12年以降3%前後で人口は減少しており、平成27年度（2015）のデータでは1km²当たり3508.2人となっています。一方、JR 西那須野駅周辺では3%から8%程度の人口増加を続けています。

■ 地区・地域別人口・世帯数（平成 30 年 4 月 1 日現在）

地域名	総数	男性	女性	世帯数	平均世帯人員
黒磯地区	36,611	17,950	18,661	15,445	2.37
東那須野地区	11,960	5,961	5,999	4,748	2.51
高林地区	5,926	3,040	2,886	2,312	2.56
鍋掛地区	6,981	3,502	3,479	2,667	2.61
西那須野地区	25,804	12,898	12,906	10,619	2.42
狩野地区	23,095	11,651	11,444	9,833	2.34
塩原地区	1,989	967	1,022	1,006	1.97
箒根地区	5,290	2,632	2,658	2,063	2.56
総数	117,656	58,601	59,055	48,693	2.42

※那須塩原市統計書（平成 30 年版）

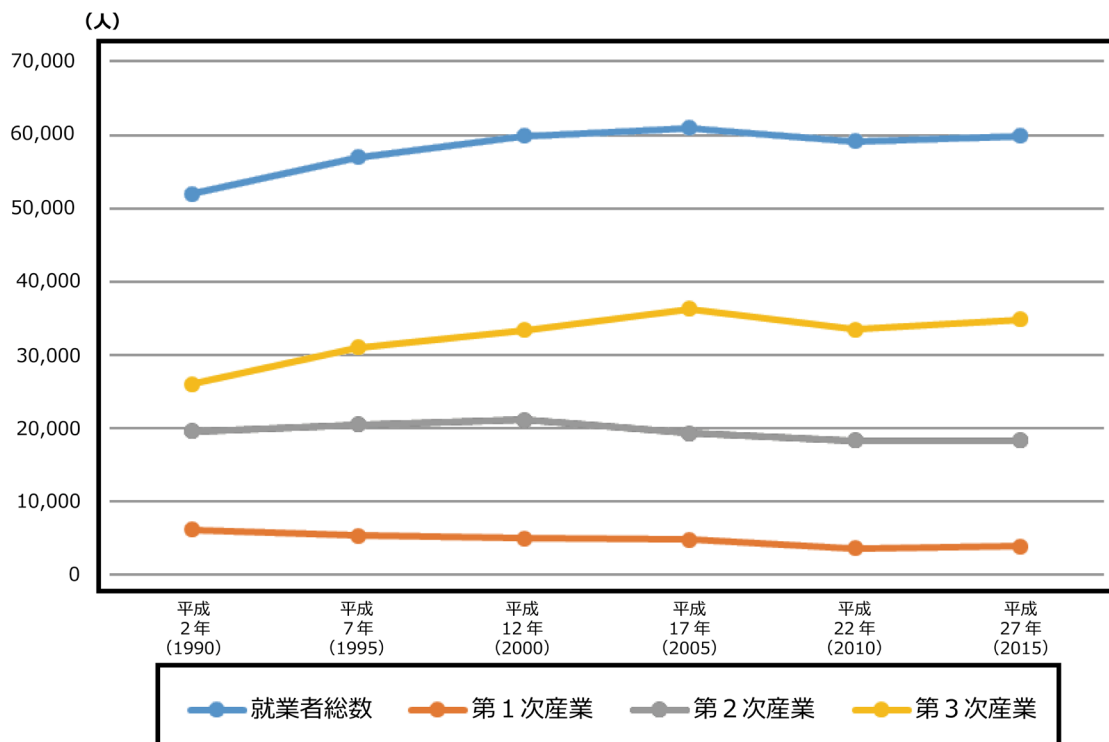
■ 人口密度マップ



(2) 産業

平成 27 年国勢調査における本市の産業別従業者数は第 1 次産業 3,912 人 (6.5%)、第 2 次産業 18,344 人 (30.6%)、第 3 次産業 34,836 人 (58.2%) となっています。

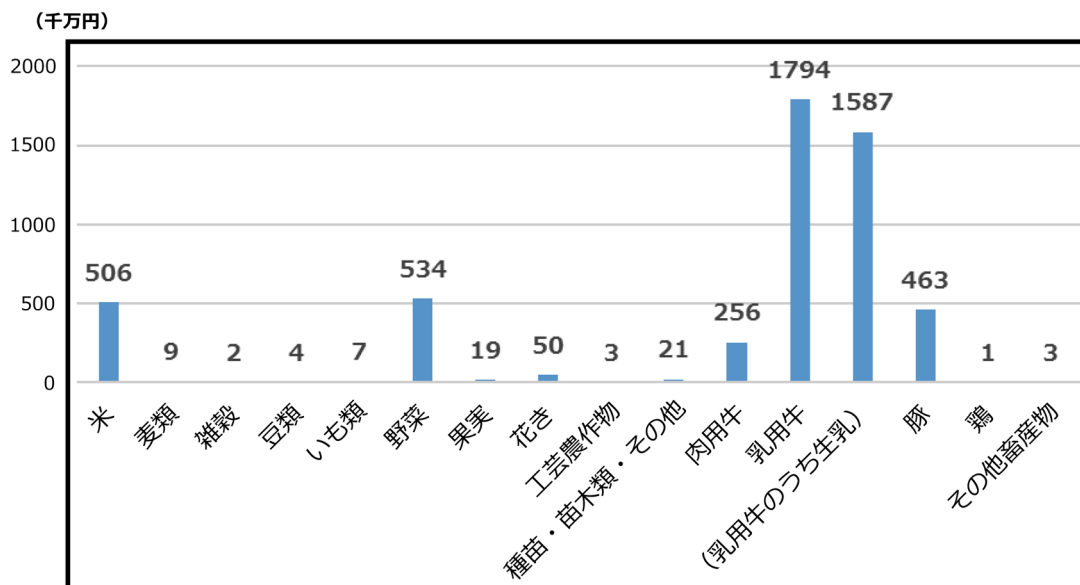
■ 産業別就業 (15 歳以上) 人口



※那須塩原市統計書 (平成 30 年版)

本市の農業算出額をしてみると、生乳産出額が 1,587 千万円と最も高く、本州一の酪農地域としての特徴が伺えます。

■ 農業産出額 (推計)

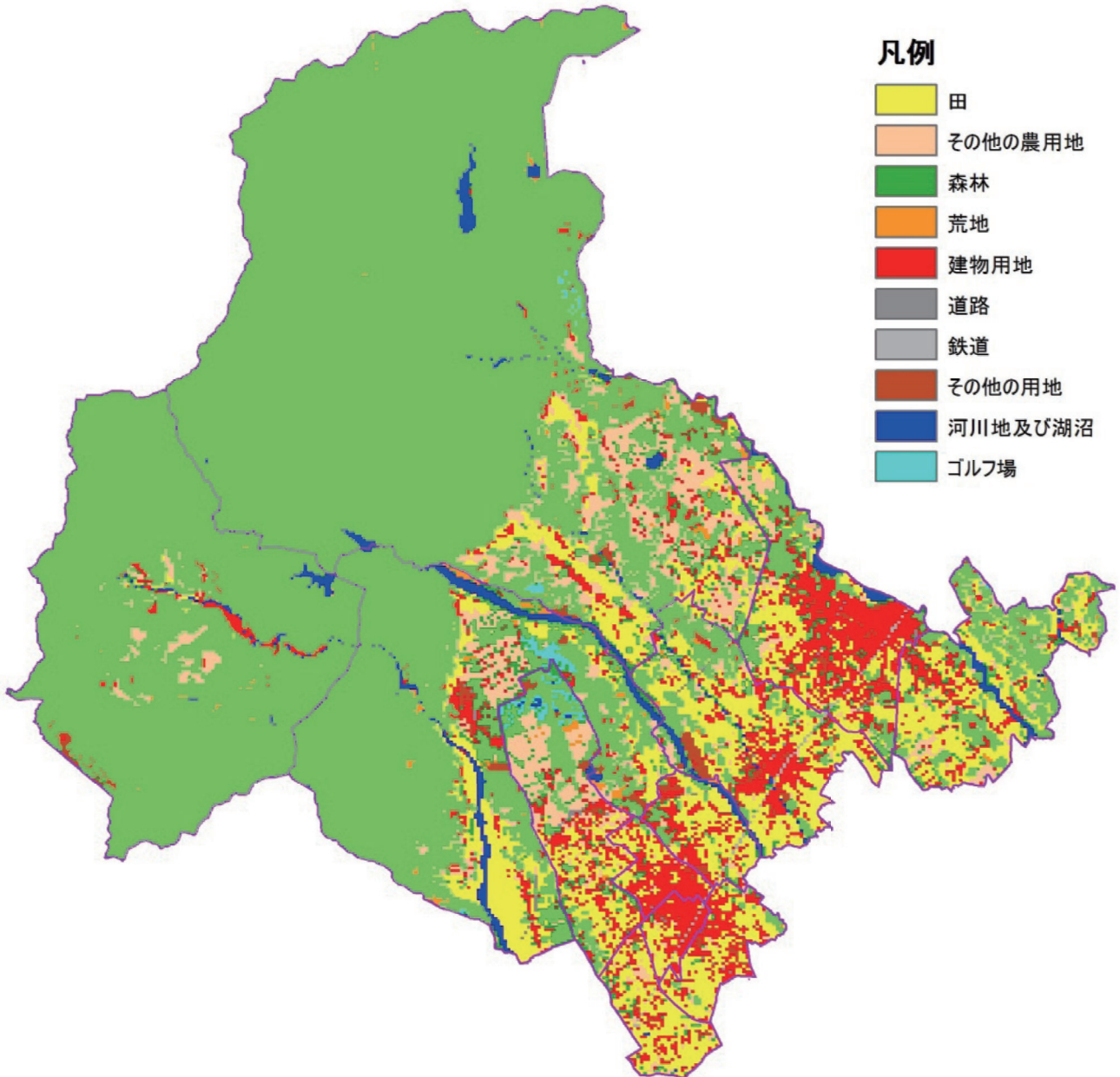


※農林水産省ホームページ (平成 29 年推計値)

工業では、ゴム製品製造工場が昭和 37 年（1962）と早くから進出しているほか、食品加工工場も多く進出しています。工場の進出やサービス産業としてのいわゆる「ロードサイドビジネス」の店舗が国道 4 号沿線に、また飲食を中心とした店舗が国道 400 号などに展開しています。

用途別土地利用の現況を見ると、建物用地は鉄道幹線を核にブロック状に広がり、工場やロードサイドビジネスの店舗が立地する場所へも広がりつつあります。

■ 用途別土地利用の現況



※国土交通省：国土数値情報土地利用細分メッシュ（ラスタ版）データを使用し作成

(3) 観光

平成30年(2018年)における本市の観光入込者の数は9,425,301人であり、前年度から微増している一方で、宿泊者数は947,162人で前年度よりやや減少傾向にあります。平成23年3月の東日本大震災による落ち込みからは回復傾向ではありますが、平成22年以前のピーク時には至っていません。

■ 観光客入込数(総数・月別)

(単位:人)

年	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
総数	8,118,334	9,518,291	9,789,918	9,864,578	9,989,935	9,757,318	9,355,910	9,425,301
1月	688,945	651,853	735,276	769,340	738,792	742,383	744,834	728,972
2月	496,352	440,560	554,655	438,141	556,442	532,230	515,019	516,975
3月	262,429	580,289	719,090	765,748	706,423	709,582	705,096	717,178
4月	468,653	703,660	735,821	766,748	804,021	744,824	751,239	797,202
5月	809,651	767,579	930,432	940,426	1,009,908	950,245	925,107	837,688
6月	599,253	632,427	744,472	697,230	696,171	678,153	683,122	675,093
7月	816,363	968,892	900,853	949,950	979,259	1,072,626	941,191	942,513
8月	1,058,131	1,459,877	1,281,508	1,267,920	1,243,873	1,195,664	1,136,181	1,164,281
9月	687,496	836,566	798,878	856,772	806,300	721,088	720,410	744,923
10月	970,579	1,003,177	904,335	950,277	993,353	989,801	786,134	934,250
11月	718,340	850,107	831,964	842,377	792,688	756,138	769,633	738,948
12月	542,143	623,304	652,634	619,649	662,705	664,584	677,944	627,278

資料:平成23(2011)年~平成30(2018)年栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果

■ 観光客宿泊数(総数・月別)

(単位:人)

年	H23 (2011)	H24 (2012)	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)
総数	837,658	917,645	961,716	942,303	958,220	935,342	957,208	947,162
1月	67,434	63,729	63,258	63,807	63,897	61,527	64,500	58,354
2月	62,438	50,339	58,263	49,025	54,015	51,921	54,404	52,641
3月	31,686	67,286	75,064	76,118	75,521	69,181	76,820	75,409
4月	30,951	64,019	70,148	62,053	61,484	65,213	66,235	70,279
5月	70,026	76,051	75,400	79,573	84,270	79,967	85,364	79,071
6月	58,809	65,938	65,265	67,402	64,994	60,289	62,777	65,598
7月	78,592	76,405	77,928	76,589	83,494	84,469	83,114	81,009
8月	117,581	124,814	138,084	139,522	146,376	137,476	136,841	135,662
9月	62,808	71,158	73,662	71,610	70,333	73,310	77,515	79,580
10月	95,129	93,415	95,074	93,310	93,830	94,339	89,026	92,957
11月	97,001	97,736	99,656	98,002	92,837	88,381	91,450	87,179
12月	65,203	66,755	69,914	65,292	67,174	69,269	69,162	69,423

資料:平成23(2011)年~平成30(2018)年栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果

(注)外国人の宿泊者を含む。

■ 観光客入込数（地域別）

（単位：人）

	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)(前年比%)
那須塩原市	9,789,918	9,864,578	9,989,935	9,757,318	9,355,910	9,425,301(100.7)
旧黒磯市	5,706,494	5,778,460	5,815,914	5,711,421	5,438,637	5,507,307(101.3)
旧西那須野町	1,554,053	1,491,377	1,561,891	1,508,763	1,456,934	1,455,572(99.9)
旧塩原町	2,529,371	2,594,741	2,612,130	2,537,134	2,460,339	2,462,422(100.1)

資料：平成 30(2018) 年栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果

■ 観光客宿泊数（地域別）

（単位：人）

	H25 (2013)	H26 (2014)	H27 (2015)	H28 (2016)	H29 (2017)	H30 (2018)(前年比%)
那須塩原市	961,716	942,303	958,220	935,342	957,208	947,162(99.0)
旧黒磯市	131,985	125,142	119,578	113,469	133,637	138,598(103.7)
旧西那須野町	31,607	29,765	32,621	33,403	32,800	32,606(99.4)
旧塩原町	798,124	787,396	806,021	788,470	790,771	775,958(98.1)

資料：平成 30(2018) 年栃木県観光客入込数・宿泊数推定調査結果

（４）上位・関連計画の概要

本市では、将来像を「人がつながり 新しい力が湧きあがるまち 那須塩原」とした第2次那須塩原市総合計画を平成 29 年 3 月に策定し、基本施策「芸術・文化環境を充実させる」において「文化財の有効活用について取り組む」としています。

同じく、那須塩原市教育振興基本計画を始めとした各分野の計画においても、文化財の保存・活用に関する方針や取組が示されているものがあることから、本構想を策定するに当たっては、上位計画、関連計画との整合を図ります。

また、平成 21 年 3 月に策定した那須塩原市都市計画マスタープラン（目標年次：令和 7 年（2025））では、市域を 12 に区分し地域別のまちづくりの目標や方針をまとめた「地域別構想」を定めています。歴史文化基本構想においては、文化財の保存・活用について、地域の歴史的背景なども取り入れながら検討する必要があるため、本市都市計画マスタープランにおける地域別構想を参考にし、整合や連携を図ります。

■ 歴史文化基本構想の関連計画

第2次那須塩原市総合計画（H 29 年度～R 8 年度）	
計画の目標等	<p>【将来像】 人がつながり 新しい力が湧きあがるまち 那須塩原</p> <p>【まちづくりの基本理念】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 自然を守り、共生するまちづくり ■ 人を中心に、共に支えあうまちづくり ■ 歴史に学び、開拓精神が息づくまちづくり
関連項目	<p>【基本政策】 未来を拓く心と体を育むために</p> <p>【基本施策】 芸術・文化環境を充実させる</p> <p>【取組内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 新たな文化財の指定と既存の文化財の保護と維持管理 ■ 無形民俗文化財保存団体への支援 ■ 文化財を活用した地域活性化の推進

那須塩原市教育振興基本計画（H 29 年度～R 8 年度）

<p>計画の目標等</p>	<p>【基本理念】 未来を切り拓く創造力と 他者を思いやる想像力を育み 生涯にわたって自分らしく自立して生き抜くことができる人づくり</p>
<p>関連項目</p>	<p>【基本施策】 芸術・文化環境の充実 市民が多様な芸術文化に身近に触れ、また、文化財が適切に保存・継承され、市民一人ひとりが地域とその歴史を学ぶことで、ふるさとへの愛着と誇りが生まれる素地を醸成することを目指す</p> <p>【具体的施策】 文化財の有効活用</p> <p>①新たな文化財の指定と既存の文化財の保護と維持管理 先人から受け継がれてきた文化遺産を後世に伝えていくため、文化財調査を行います。また、貴重な資料については、新たに文化財に指定するとともに、既に文化財に指定している史跡及び資料については、管理状況を把握し、適切な環境整備を行い、保護に努めていきます。</p> <p>②無形民俗文化財保存団体への支援 無形民俗文化財が継承されるよう保存団体に対し、必要な支援を行います。</p> <p>③文化財を活用した地域活性化の推進 地域の活性化につながるよう、日本遺産の認定推進をはじめ、文化財群を有効に活用します。</p>

第2期那須塩原市生涯学習推進プラン（H 29 年度～R 8 年度）

<p>計画の目標等</p>	<p>【基本理念】 学びでつなぎ とともに創るまち 那須塩原</p>
<p>関連項目</p>	<p>【施策】 豊かな心と文化をはぐくむために</p> <p>【取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 地域の文化財の保存と継承 地域の文化財の保存と継承を推進します。 ■ 地域の歴史、伝統文化に対する理解 市民が行う伝統文化の継承を支援するとともに、地域の歴史、伝統文化に対する理解を深めます。また、国内外に本市の地域文化を積極的に発信します。

那須塩原市景観計画（H 21 年度～）

<p>計画の目標等</p>	<p>【区域】 那須塩原市全域</p> <p>【景観まちづくりの目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 豊かな自然と調和した潤いとやすらぎのある景観を形成する 2 交流を促進し、魅力ある都市の景観を形成する 3 先人の築いた歴史、文化を継承し、地域固有の景観を形成する 4 市民協働の景観まちづくりを推進する
<p>関連項目</p>	<p>【基本方針】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新しい都市活力を創造する <ul style="list-style-type: none"> ■ 多様な人々が交流する玄関口にふさわしい景観づくり ■ 自然景観との調和のとれた観光施設等の誘導 2 地域固有の景観の保全 <ul style="list-style-type: none"> ■ 雄大な山並みの眺望の保全 ■ 農地と平地林が織り成すのどかな田園風景の保全 ■ 特徴ある街道やつるおいのある水辺の保全 ■ 歴史・自然と個性を演出する景観づくり 3 市民協働の景観まちづくり <ul style="list-style-type: none"> ■ 多様な参加による景観まちづくりの推進

那須塩原市まち・ひと・しごと創生総合戦略（H 27 年度～R 1 年度）

<p>計画の目標等</p>	<p>【目的】 選ばれるまちづくり 本市には、那須疏水の開削のために様々な開拓者を受け入れて以降、人と自然との共生を育んできた「選ばれしまち」としての歴史があり、フロンティアスピリッツを引き継ぐ文化・風土が残っています。 本市の特徴を活かしつつ、本市独自の施策展開、個性を明確にすることで定住促進を図り、人口減少克服と地方創生に取り組んでいきます。</p>
<p>関連項目</p>	<p>【重点施策】 交流</p> <p>【取組】 市全体での魅力ある観光地づくり 市内観光協会等と連携し、本市がもつ風光明媚な自然や温泉などの豊かな地域資源を生かした、他の地域にはない魅力ある観光地づくりを推進し、観光プロモーションの充実を図ります。アートを活用したまちづくりに市民協働で取り組むとともに、那須野が原開拓の歴史の日本遺産への登録に取り組むなど、本市の魅力を活かしたまちづくりを進めます。</p>

那須地域定住自立圏共生ビジョン（H 27 年度～R 1 年度）	
計画の目標等	広域計画：那須塩原市・大田原市・那須町・那珂川町の中心市として構想を推進 【将来像】 「多自然地域と居住都市の新たな共生」－自然を育み、魅力・活力に満ちた圏域の創出を目指して－
関連項目	【取組分野】 産業振興 【形成協定】 圏域内の自然景勝地や温泉、歴史、文化、農産物を有効に活用し、観光客の増加や販路の拡大に向けた PR 活動に連携して取り組む

■ 那須塩原市都市計画マスタープランにおける地域別構想（概要）

地域区分	地区別まちづくりの目標	まちづくり方針（歴史文化関連事項）
1 黒磯地区	黒磯の中心にふさわしい魅力と人と人との交流のあるまち	<ul style="list-style-type: none"> ■ にぎわいの再構築 ・黒磯駅周辺を本市の北の玄関口と位置付け、黒磯神社や蔵などの歴史的建築物や老舗商店の趣きを活かしながら、市民や訪れる観光客が楽しめるまちづくりを進めます。
2 鍋掛地区	歴史に育まれた豊かな自然環境と調和したまち	<ul style="list-style-type: none"> ■ 歴史文化漂うまちづくり ・芭蕉の句碑や鍋掛の一里塚といった歴史的資源を核に、旧奥州街道の景観の保全に取組み、生活と調和した歴史文化漂うまちづくりを進めます。
3 東那須野地区	新たな文化の創造と発信により多くの人を引きつける 出会いにあふれたまち	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自然・歴史資源の活用 ・葉王寺等の地域ゆかりの資源を活用し、散策路やポケットパークなどの整備を進めます。
4 高林地区	高原の緑と広がる大地に包まれ、こころ豊かに暮らせるまち	<ul style="list-style-type: none"> ■ 観光拠点の整備 ・板室温泉地区、木の俣川周辺及び湯宮・鳴内地区においては、温泉、那珂川や木の俣川などの観光資源、黒龍山信仰や大日薬師といった歴史・文化資源を活用し、来訪者との交流の場を創出し、憩いの里としての整備を進めます。 ・田舎ランド鳴内、明治の森及び戸田水辺公園を活用し、また沼原湿原等の高原観光地域拠点とのネットワーク化を通して、地域の資源を最大限活かした、人々の交流を促します。
5 西那須野中央地区	新市の南の顔にふさわしい いきいきとした明るいまち	<ul style="list-style-type: none"> ■ まちなかに那須疏水等の自然の潤いを効果的に持ち込む ・疏水パークのように那須疏水を活用した公園づくりを検討します。
6 西那須野狩野地区	歴史のかほりそよぐさと	<ul style="list-style-type: none"> ■ 権現山を拠点とする歴史と自然の環境を創造する ・地域のシンボルとして権現山の自然を保全し活用するとともに、それに連なる平地林や河川、湧水等の各種の資源をネットワークさせ、地域の歴史と自然を身近に感じられるようにします。
7 西那須野南地区	美しい水と緑にあふれたであいの里	<ul style="list-style-type: none"> ■ 常盤ヶ丘の歴史的・自然的環境を創造する ・常盤ヶ丘は、歴史的なシンボルであると同時に、まとまった緑地として貴重な存在であるため、現在の土地利用を維持・保全するとともに、オープンスペースの公園的整備を進めます。 ■ 那須疏水を活用した水辺空間をつくる ・たて道及び縦掘は、地域のシンボリックな道として位置づけ、那須疏水の再整備等を検討します。 ・自転車・歩行者ネットワークの形成にあわせ、那須疏水を活かした水辺空間を創造します。 ■ 歴史的な資源を活かした風景をつくる ・地域の南にある旧日光北街道や親王台等の歴史的資源を生かし、田園地区の歴史やふるさとを感じさせる風景を創造します。 ・南小学校周辺のたて道や横道等の古くから整備された道は、その名残を生かしながら住民の身近な空間として整備します。

地域区分	地区別まちづくりの目標	まちづくり方針（歴史文化関連事項）
8 西那須野 西地区	開拓の歴史が息づく、そ すいの郷づくり	<ul style="list-style-type: none"> ■ 良好な田園空間を維持し創造する ・ 那須野が原の自然と開拓の歴史が息づく田園空間を維持していくため、住宅地や工業系施設の開発に対する適切な土地利用誘導と、営農環境の保全や農地の維持支援に取り組みます。 ■ 開拓地の水・緑・歴史に親しめる空間づくり ・ 開拓地の豊かな自然・歴史資源に親しめるよう、環境整備と平地林の保全に取り組みます。 ■ 地域の自然・歴史資源を結ぶ歩行者・自転車ネットワークをつくる ・ 開拓地の豊かな自然・歴史資源を回遊できる歩行者・自転車ネットワークの形成に取り組みます。
9 西那須野 三島地区	街並みに笑顔が映えるご ぼんの目一三島地区	<ul style="list-style-type: none"> ■ 多くの人が交流し、活動する拠点機能を強化する ・ 文化交流拠点では、那須野が原博物館や三島体育センター等、市民や来訪者の交流や活動の拠点を形成します。 ■ 東赤田の田園地域を維持し創造する ・ 良好な営農環境と田園風景を維持していくため、住宅や工業系の沿道立地施設の適切な規制誘導やホテルや石ぐら等の自然的・歴史的資源の保全・活用に取り組みます。
10 西那須野 大山地区	文教と友愛の郷一大山地区	<ul style="list-style-type: none"> ■ ふるさどを感じる田園地域の景観をつくる ・ 屋敷林や水路、歴史的資源等の地域資源を生かし、特徴的な景観を持つ農村集落として維持・創造します。 ■ 歴史・文化・自然資源を大切にしたい空間をつくる ・ 大山別邸や乃木別邸等の歴史的・文化的な資源や乃木緑地等の自然資源を活用し、地域を散策する散歩道のネットワーク形成を図りつつ、潤いのある空間づくりを進めます。
11 塩原地区	豊かで清らかな流れを守り育て る 温泉文化の郷一塩原	<ul style="list-style-type: none"> ■ 温泉街の活性化 ・ 『文化温泉郷一塩原』の再生を目指して、社寺を始め民間で所有する文化財、伝統工芸品、技術者等を見学する場と機会を設け、温泉街の滞留する魅力を高めるとともに、塩原温泉の各所で文化に触れる場所を積極的に生み出します。 ■ 自然体験拠点の再生 ・ 大沼公園などの自然体験の拠点を再整備します。 ・ 温泉街周辺などの山間部を、自然体験のフィールドとして積極的に活用していきます。
12 碓根地区	水と緑と個性を活かした景観 整備による 新たなまちづくり	<ul style="list-style-type: none"> ■ 旧関谷宿の歴史を活かした景観の整備 ・ 旧関谷宿の歴史を物語る遺産・史料の展示、商店街における景観やサインの整備によって、宿場町としての雰囲気再生します。 ■ 塩原ダム湖及び周辺における水辺観光拠点づくり ・ 既設のもみじ谷大吊橋や回顧の吊橋などを生かし、ダム湖周辺を回遊できる歩道の整備を行い、より滞留機能を高めます。